



## 1 就職内定 嬉しい報告



ガッツポーズの皆川さん、竹貴さん、辻さん(左から)

情報技術に精通した人材のニーズが高まっています。本校でも4月から就職内定者が続々と増えています。

今回は、『システムズ』内定の皆川拓海さん(東海高卒), 『常陽コンピューターサービス』内定の竹貴晃由さん(勝田高卒)と『コムテック』内定の辻真仁さん(石岡二高卒)です。



Q1 どんなIT技術者を目指しますか?

A1 ○皆川さん「皆さんから信頼される技術者」○竹貴さん「コミュニケーションを大切にする技術者」○辻さん「様々な課題にチャレンジする技術者」

Q2 本校での学びと成果は?

A2 ○皆川さん「集中してIT技術を学ぶことができました」○竹貴さん「実践的な知識を演習等で学ぶことができた」○辻さん「専門技術を学びました」

## 3 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加え「社会人基礎力」向上のため、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。

<記事> 読売新聞(2022年5月8日)

「技術革新 私たちの手で」

◇要約

●山田愛璃さん(土浦三高卒)

琉球大学工学部教授の玉城絵美さんは、高校生の時に病気で長期入院を余儀なくされ、屋内にいながら外で動いているかのような体験ができる社会を思い描き、実現するための研究を続け、ポゼストハンドを生み出した。

●小林優希さん(常磐大学高卒)

電気信号で腕の筋肉で刺激を与えて、手指を指示通りに動かす装置を「ポゼストハンド」という。これを発展させ、感覚や体験を共有する「ボディーシェアリング」の実用化を目指している。

◇感想

●小林亜斗夢さん(常陸大宮高卒)

この技術に関しては色々な人の助けになると思う。特に手足が不自由な人にとって大きな喜びを与えられると思う。このような技術は成長を続けて欲しいと思う。

●海野璃衣さん(土浦三高卒)

「ボディーシェアリング」は素晴らしい技術だと思う。私もこのような技術を利用して便利に過ごせたら良いと思う。子供など私たちくらいの世代の人に、工学を学ぶ人が増え、発展していくと良いと思う。

●中熊柚香さん(水戸第二高卒)

自分の経験からアイデアを出し、一から作り出すことは簡単ではないと思う。私も見習ってすぐに無理だと諦めずに、多くのことに挑戦して人々の助けになるようなものを作っていきたいと考えた。

ITから  
創造した  
未来へ

## 2 みんなの母校訪問!

### 県立石岡第二高等学校



飯塚祐介 教諭

創立110年の伝統校で「なりたい自分を全力で支える学校です」と辻武晴校長は話されていました。本校に入学した卒業生は、高校時代の先生方の指導に感謝しています。進路担当の飯塚祐介教諭は「日本にとってIT技術は大事な産業」と卒業生にメッセージを書いて頂きました。

「ITとは、これまでも、これから日本で最も大事な産業分野だと思います。」

辻くん、矢口くん、飯塚先生、精一杯努力して下さい!!



学校パンフレットから

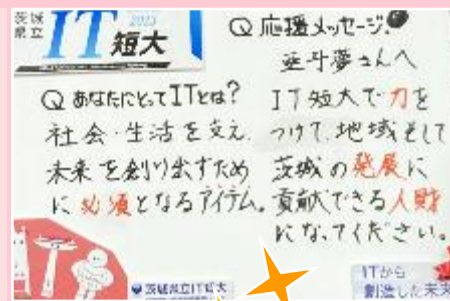
### 県立常陸大宮高等学校



松代 寛 教頭

太田和暉 教諭

普通科、機械・情報技術科商業科の3学科と特色ある学科構成です。松代寛教頭は、「IT短大で力をつけ、地域そして茨城の発展に貢献できる人財になれ」とメッセージを送って頂きました。数学担当の太田和暉教諭は、「ITは未来創るアイテム」と話されていました。



本校舎風景

